

第2回 町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会 会議録

開催日時：平成23年6月30日（木）17時～19時20分

開催場所：町田リサイクル文化センター研修室

出席委員：（敬称略）

細見正明、松波淳也、藤倉まなみ、百武ひろ子、杉山昌弘、稲木健志、粕谷羊三、高橋倫正、金田剛、高橋清人、大谷公二、高木康夫、富岡秀行、金子忠夫、伊東和憲、小林美知、片岡慎泰、藤井修

傍聴者：6名

《次第》

（議事）

1. 開会
2. 副委員長選出
3. 検討にあたっての共通認識等
4. 専門部会の検討テーマと内容について
5. 次回日程について
6. 閉会

《配布資料》

資料1：ごみ処理の現況体系と問題点、ごみ処理の将来体系

資料2：エネルギー回収推進施設の種類と施設概要

資料3：検討委員会について

資料4：専門部会の検討テーマと内容

資料5：循環型社会形成推進交付金、循環型社会形成推進地域計画について

第2回委員会議事録要旨

1. 開会

○環境資源部部長より開会挨拶

2. 副委員長選出

○副委員長選出

(事務局)

副委員長は、松波委員に就任頂きたい。

(一同了承)

○松波副委員長あいさつ

3. 検討にあたっての共通認識等

○資料1「ごみ処理の現況体系と問題点、ごみ処理の将来体系」を事務局から説明

(藤井委員)

基本計画の中で発電計画は書いてないが、発電効率はどれくらいか。現在280万キロワットのを1,630万キロワットの売電を目指すとしており、将来、今の5、6倍くらいの売電計画になっているが、メタンガスを電気に換算しているのか。メタンガスを電気に変える時も同じようにボイラーで発電するので、こんなに増やせるのか。

また、初期投資、年々の費用もかかるが、資源化が最優先で少々お金がかかっても良いという方針か。

(事務局)

最近は、1日68,000キロくらい売電している。年間で2,800万キロくらい、稼動は350日～360日の間。

(藤井委員)

約1割で、2,400～2,500。これはそのまま使って、売電を増やすということか。

(事務局)

今の発電効率は9～10%くらい。新しい設備は20%くらいなので、倍くらいに効率を上げられる。ただ、炉の形状、規模に左右されるので、使い道、所内電力または所内の蒸気を抑えることなどにより、効率的な運転ができるものとする。

(藤井委員)

分かった。費用面はどうか。

(事務局)

生ごみの堆肥化施設の規模、バイオガス化と堆肥化に何トン分けるかは出したが、金額の具体的な検討はしてない。バイオガス化にはタンクや施設規模も相当の面積がかかるが、実施しているところを見て、調査していく。

土地確保費用、場所も決まってないが、今後、費用対効果も含めて、十分精査しながら検討頂きたい。

(細見委員長)

今回の比率で家庭でごみ処理機を使った残り100%資源化するという目標に基づいた場合、どのくらいバイオガスプラントが必要か算定したい。

(藤井委員)

検討したがこの金額ではダメと言われたら何をやったか分からなくなるので、大枠の金額を伺いたい。

(細見委員長)

整備基本計画専門部会で、基本計画でどのくらいの金額か、コストの点から検討すると他の案もあるというように具体的に金額を出し、設備の大きさ等を議論していく。

(藤井委員)

初期投資の金額の枠は示してほしい。

(事務局)

費用対効果について現状は把握してないが、国の補助金、支出も含めて、時期を見ながら判断する。

(小林委員)

町田市は、燃やさない・作らない・埋め立てないことを前提にしないといけない。
時期を考えてではなくて、予算の大枠ははっきりして頂きたい。

(事務局)

次期中期計画を策定中で、次の5年間で、今後の施設建設の予算の枠組みを示すことになる。今年度中なるべく早い時期に、5年計画、10年計画の枠組みとして示せたらよいと考えている。

(小林委員)

処理施設、焼却炉は大きい施設ではなく、資源化で残ったものを燃やすようにして欲しい。生ごみは、各家庭で処理機、地域で大型処理機、畑のコンポストが増えれば、メタン発酵施設はもっと小さい規模になると思うが、議論の中で規模が変わるのはどうなのか。

(細見委員長)

どれだけ家庭でできるのかという割合は、最大30%、3,000トンを目指すと審議会で検討した。

(伊東委員)

資料1の燃やせるごみの焼却残渣の8,645は、焼却灰と飛灰を合わせた数値でいいのか。

(事務局)

8,645は、焼却残渣の合計。

(伊東委員)

燃やせないごみの6割くらいか。

(事務局)

はい。

(片岡委員)

モデル地区の南町田で分別したものは、市原市に燃やすごみとして頼んでいたと聞いたことがあるが、今は違うのか。

(事務局)

実験という形で分別したものを他市に持っていったというのは聞いているが、今は全て日の出町の広域処分組合に運んでいる。

(小林委員)

燃やせないごみは、中から金属等の資源化できるものを取った後大半を燃やしているなら、分け方を変えて資源化できるものを増やしていきたいという考えを環境教育等で理解を広めていくべきではないか。

(事務局)

賛成である。6割近いものが燃やせるごみとして処理しているので、不燃・粗大・破碎設備の規模が小さくてもいいという気はする。施設関係については、ソフト面も考慮し検討部会で議論して頂きたい。

(細見委員長)

エネルギーの細かい数値は改めて整理する。

○資料2「エネルギー回収推進施設の種類の施設概要」をコンサルタントから説明

(細見委員長)

資料2では、エネルギー回収推進施設は、環境省が指定する機械でないと補助金が下りないということで、大きく7つの方式を示した。プラスチック資源化は、他市の事例も含めて紹介した。

(高橋(清)委員)

メタン化施設の湿式の事例について、規模は。

(コンサルタント)

メタン化施設はもともと下水汚泥の消化タンクに使われ、日本中の畜産では200ヶ所以上動いていると思う。メタン化は難しい技術ではなく、湿式の事例は多く、畜産で実施されている。乾式は市町村で2、3ヶ所くらいか。

(高橋(清)委員)

湿式でも様々なごみからメタンを作るのは大変と思う。生ごみで実施している例はあるのか。

(コンサルタント)

10箇所くらいはあると思う。

(高橋(清)委員)

大きさはどの程度か。実験か実用化か。

(コンサルタント)

実用化されている。

(藤倉委員)

5年位前に北海道空知地区で一般廃棄物の生ごみのメタン化施設を作った例が皮切りだったと思う。10万人規模の市町村の生ごみのメタン化を湿式で実施し、環境省の補助金の対象になっている。肥料化や堆肥化に比べれば、ビニール袋やある程度混入物が入っていても発酵すれば大丈夫と言っているので難しくはない。ただ大量に有機性排水が出るので、下水道に入れる排水処理が無いと難しいと思う。

(高橋(清)委員)

どの場所でどのくらいの規模のものがどの程度あるのか調べて頂きたい。

(細見委員長)

次回までに。

(藤倉委員)

資料2に関連して、プラスチックを分別収集する品目について、前の減量資源化基本計画では、容器包装だけか、全プラスチックが対象か。

資料1の裏面の将来構想について、生ごみ処理機、処理物を新たに分別収集して肥料化施設と

なっているが、メタン化施設には入れずに、別に肥料化施設に入れるのか。

資料5について、市の財政負担を減らすためにも環境省の交付金対象施設から選びたいという趣旨と思うが、この中の5番の有機性廃棄物リサイクル推進施設は、検討の対象外という前提か。

(事務局)

1点目のプラスチック関係は、容器包装プラスチックを対象に考えている。粗大ごみの衣装ケース等プラスチックだけでできた製品は既にリサイクルしており、もう少し拡大できると考えている。

2点目の生ごみ処理機の処理物は、原則として各家庭、地域で肥料としての利用を考えているが、処理機が更に広まった場合には市で集めて肥料化することを考えている。

3点目の5番目の有機性廃棄物リサイクル推進施設は、今のところ、飼料は考えてない。

(藤倉委員)

飼料化施設や肥料化施設は今回考えないとすると、生ごみ処理機から集めた肥料化施設は交付金を貰わないのか。

(事務局)

生ごみ処理機の生成物の絶対量は多くない、かなり小規模の施設になるだろうということで、ここには印を入れてない。

(細見委員長)

増えれば、あり得るのか。個々の家庭と集合住宅では、出てくるものが若干違い、何か除かないと使えない場合が生じると思うので、バックアップも考えておくべきと思う。補助金対象の基準があると思うので、事務局としても可能性は検討して頂きたい。

(藤井委員)

プラスチックを燃やせるごみから分別することについて、ボイラーの熱源、エネルギー源は大丈夫なのか。

(事務局)

今の施設では、基本的に生ごみだけで、プラスチックがなくても燃えると考えている。プラスチック類は1万tの発生を想定しているが、全部が資源化できるとは考えてない。

(藤井委員)

徹底的に分離したが、結局、燃やす時に分離したプラスチックを熱源として加えているというのを聞いたことがある。900度～1000度くらいで燃やすのに、熱的に大丈夫か、計算したか。

(事務局)

詳しい計算はしてないが、生ごみは、生ごみ処理の生成とメタン化ということで、残りは汚れ

た紙類で、カロリーが高いと考えられる。

(藤井委員)

メタンガスの残渣は大丈夫か。

(事務局)

メタン発酵から出てくる残渣は、焼却に回す。高カロリーのゴミが大分無くなるのは間違いはない。カロリーでは2000キロとか2200キロカロリーくらいのエネルギーは確保できると想定しているが、他の市町村の実態も見ながら考えていく。

(細見委員長)

前回の廃棄物減量等審議会では徹底的にごみを出す前に洗っていただくという想定で集団回収した結果やアンケート結果をもとに考えている。

(小林委員)

次回資料に、焼却炉、メタン化施設等、実際に稼働しているところのデータを調べて頂きたい。人口40万人都市くらいの町田市に近いところも。

(細見委員長)

できると思う。

(松波副委員長)

コストについての資料がない。交付金対象になる施設の事例について、どのくらいのコストでできたか。

リサイクルしても安定的に需要がなければ、新たなゴミを作るだけなので、資源化した先の需要がうまくいっているかも調べて頂きたい。

(細見委員長)

いろいろな資源化施設がどのように使われているかできるだけ出したい。

熱回収施設のコストは明らかになっているので、規模、人口も調べたい。

4. 専門部会の検討テーマと内容について

○資料3「検討委員会について」、資料4「専門部会の検討テーマと内容」、資料5「循環型社会形成推進交付金、循環型社会形成推進地域計画について」を事務局から説明

(富岡委員)

八王子の館町の清掃工場は建て替え、多摩に持ち込んでいるのか。

(事務局)

建て替えは検討されていないと思う。そのまま休止ということである。

(富岡委員)

余裕があれば町田市からも持ち込めるのか。

(事務局)

状況が確認でき次第、説明する。現時点でははっきりしてない。

(細見委員長)

多摩ニュータウン環境組合への持ち込み量は大事な条件となるが、他市との関係もあるので、もう少し詰めてより明確な数字が出れば、それを基に議論させて頂きたい。

(百武委員)

資料4について、「委員会全体の検討テーマと内容」では、8月～10月分しかないが、運営計画を決定する等重要なところでは両方が話し合う必要がある。

(事務局)

全体の規模を決めないと個々の議論に入れないということで、この期間は全体で議論頂く。専門部会に分かれた段階でも重要な点は、持ち帰って議論し、決定していくと考えている。

(百武委員)

スケジュールは、もう少し詳しい全体の流れで、2つの部会と全体がどう関わってくるかを出して頂きたい。

(事務局)

今後調整する。

(細見委員長)

議論を進めていく過程で、全体として統一を図らなければいけないと専門部会の部会長等が判断すれば、統一して議論して頂く。専門部会の情報を開示し、もう一方の専門部会がどんなこと議論しているか理解し、両方の進行具合を見極めながら、全体として議論が必要か判断して進めていきたい。

(小林委員)

資料4の候補地の決定の段階では、委員はどのような立場で出すのか。

(事務局)

検討会では候補地に足を運び、意見を聞きながらとりまとめ、部会、検討会で意見交換し、パブリックコメント、最終的には検討会の名前で出したものを行政が公表するという形になると思う。今までの行政主導とは違う方法を考えている。

(小林委員)

パブリックコメントの段階で市民に公表し、地域の人達の声も盛り込みながら考えるということか。

(事務局)

今言われたような方策を取りながらやっていきたい。

(細見委員長)

審議会も部会も基本的には原則公開という形で進める。

(高橋(清)委員)

資料3の基本計画策定の目的・背景・意図等について、補助金を貰ってエネルギー回収という点に力点が置かれているが、地元としては新しい設備で環境負荷を下げてもらいたい。NOx、SOx、ダイオキシンは、国の基準に合格しているからいいだけではなく、もう少し下の値を掲げてクリアしている例があるので、調べて頂きたい。

(細見委員長)

東京の一部事務組合はデータも公表している。要求すれば出して頂けるので私自身からも協力依頼をしたい。環境負荷の低減をまず目指して、その上でエネルギーの回収というのが今回の大きな目標である。

事務局への質問の回答には名前を出して、公表資料を作りたい。質問される方で名前をだしても良いという方はそうして頂きたい。

5. 次回日程について

○専門部会

専門部会希望書を7月8日までに提出頂きたい。どちらかの部会に偏った場合は、事務局で調整させて頂く。

○第3回目

(事務局)

7月29日金曜日、13時30分に町田市役所正面玄関集合。

多摩市エコプラザのプラスチックの資源化施設、ビン・缶の資源化施設、多摩ニュータウンの環境組合のストーカー式の清掃工場を視察する。

終了後、懇親会を開いて意見交換をしたい。

○第4回目

(細見委員長)

第3回目で実物のエネルギー回収施設、焼却施設とプラスチック、ビン・缶等の資源化センターを見て頂き、今回整備する施設のごみの量、施設規模を事務局が調べてからなので、8月末く

らい。

第4回目は8月29日14時から16時30分。場所は同じ町田リサイクル文化センター研修室。

6. 閉会

○細見委員長より閉会のあいさつ

(細見委員長)

質問は次回に答えられるように早いうちに投げかけて頂ければ、事務局が調べて次回資料、口頭で答えていけるので、事務局にメールやFAXでお願いしたい。